

みんなはどうやってるの？

まちづくりを 考える日

うちでも
活かそう！

～みんなのアイデアを自分ごとに～ 2026

まちづくり発表 (12分)

～新たな観光資源づくり～

2026年8月7日(金)13:30～16:45
松江市市民部市民生活相談課

発表者

海の楽校 校長

召古裕士 (めしこやすし)

海の楽校の概要

近日中に質問にFBで答えます
QRコードにアクセス



Facebook QRコード

省略

・海の楽校の概要

誰が、どこで、いつ、どんな活動しているのか？
なぜ活動を始めたのか？
活動方針・目標は何か？

・具体的な活動事例

具体的な取り組みについて
どうやって活動を行ったのか？
協力してくれた団体・人
活動に対する参加者・周囲の声
活動する上での課題、困ったこと

・今後の活動予定

次のイベント予定？(ぜひ告知してください！)
活動する上での課題解決に向けた行動？
今後やってみたいこと、コラボしてみたい団体？

・資金調達

どのような補助金・制度を活用しているのか？
活動資金の割合(補助金・自己資金・協賛金・寄付…)
資金調達での課題、解決方法？

発表内容の概要

Fbに転記しておきます
QRコードにアクセスして下さい



Facebook QRコード

1ーどのような事業か？

小波に漂着する「貝の図鑑」を作りました
生物多様性の大切さを伝え、
自然との共生の大切さを伝え、
やがて、持続可能な社会を作る

2ーどのような成果か？

幕末の松江城と同じで、当時は価値の解らない城でした
同様に、やがて生物多様性の大切さを知り
さらに、その保全や修復に取り組み
やがて、私たちの「生き方暮らし方の行動変容」へと向かい、
そして、「WELL BEING」へと向かうことでしょう

省略

3ー持続可能な事業の課題？

任意やNPO団体で、大変難しい課題です 逆に、期限を決めて閉じることも大切です
「海の楽校」も、これから作る「日本で一番地小さな貝の博物館」も、期間限定です
属人的な仕事は、事業継承が最も難しい その解決策は、敢えて「TOPが居なくなること」

4ー今後、取り組みたいこと？

現社会の多くの責任は、私たちです 市民・国民の持続可能な社会へ向かう行動変容です



海の学校



———発表内容———

1. はじめに
2. 美しい・行きたい小波
3. 観光資源作り戦略
4. まとめ

体験を通じて、自然の摂理を楽習する空間



島根半島最北端の島根町

小波浜 (湾口200m, 浜400m, 50世帯小集落)

海の楽校

多古鼻

小波浜





2ー美しいな～！ 行ってみたいな～！ 小波～！



An aerial photograph of a tropical bay. The water is a vibrant turquoise color, transitioning to a lighter shade near the sandy beach. The beach is crescent-shaped and surrounded by lush green hills. A small village with red-roofed houses is situated on the right side of the bay. In the background, more hills and a distant body of water are visible under a clear sky.

スキندайビングは、
最高です。



小波浜の漂着ゴミ

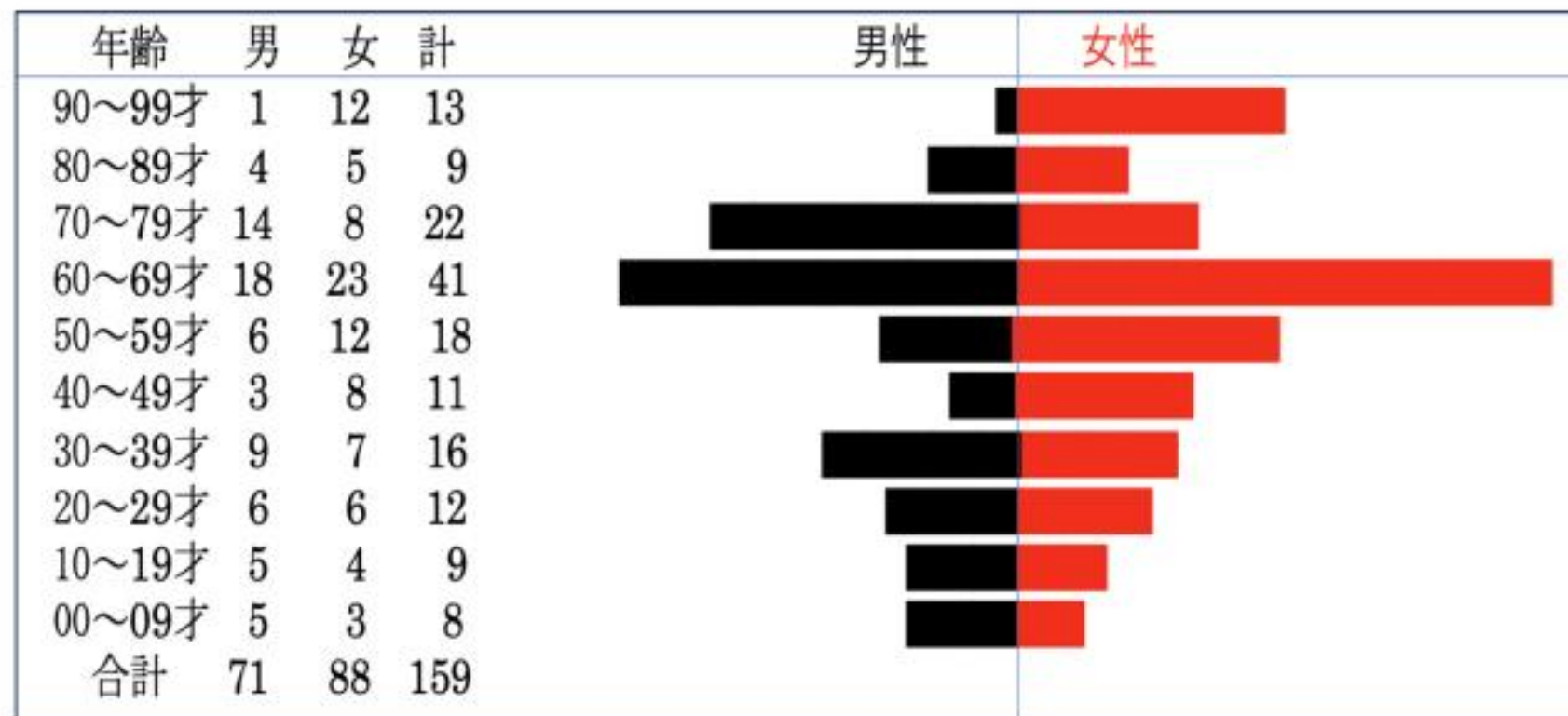


2010/02/17

小波の人口ピラミッド

平成30年12月31日作成

世帯数52軒 居住者数 男性69人 女性86人 合計155人
高齢化率 65/155 = 42%
高齢者（65歳以上）独居 7世帯 2人以上 7世帯 3世代 4世帯



2026年3月

・ 保育所閉鎖

・ 交番閉署

2026年4月

・ 小学新入生0人

一番近いお店は
川津まるごう

沖泊

多古

美しい景観ですが
課題も山積です

観光資源はないか？

小波

デジタル顕微鏡で、
小波浜の砂を観てください。



微小貝の神秘世界



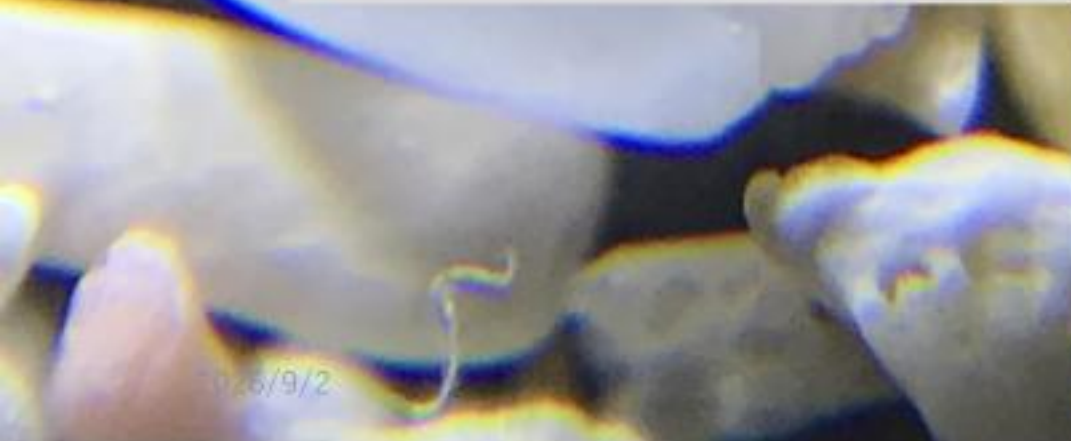
小波シェルビーチ



小波の不思議をデジタル顕微鏡で見てみよう！



小波浜の砂を 拡大して見ると何と！



生物多様性の豊かな小波浜

5年間収集
貝類430種

その内43種は絶滅危惧種・210種は微小貝
(成長しても10mmに満たない貝)

僅か、400mの浜にこれだけの貝類

見る観光から感じる観光

観光のスタイルが「**消費する観光**」から、地域の自然や文化に深く関わり、学びや気づきを得る「**持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）**」へと大きくシフトしているようです。

「トキの放鳥」や「コウノトリの復活」や「ホタル米」のように、**生物多様性の豊かさや自然の回復プロセスそのものを地域ブランドや観光資源にする動き**は、現在まさに国や企業の垣根を越えて最重要視されています。

■ ネイチャーポジティブ (自然再興)

現在、環境分野で最もホットなグローバルキーワードです。単に「自然を破壊しない（保護する）」だけでなく、「自然をプラスに増やしていく（回復させる）」という考え方です。

■ OECM (国立公園以外の生物多様性保全地域)

国が指定する国立公園だけでなく、民間の森や地域の里山・里海、あるいは住民が守ってきた海岸など、「地域の人々の営みによって結果的に豊かな生物多様性が保たれている場所」を国際的に認定する仕組みです。

観光のスタイルを表すキーワード

■ **リジェネラティブ・ツーリズム** (再生型観光)

■ **エデュ・ツーリズム** (Edu-tourism : 教育観光)

メディアを賑わす「環境・生物の再生」キーワード

ネイチャーポジティブ(自然再興) / 自然共生サイト / 生物多様性ビッグデータ / グリーンインフラ / 里海(さとうみ)資本主義 / ブルーエコノミー / トキの放鳥 / コウノトリ復活 / ホタル米

戦略(ストラテジー) (5分)

生物多様性を観光資源

- 1 一貝の収集→貝の分析同定→貝の図鑑
- 2 一図鑑英文翻訳 (世界に発信)
- 3 一日本で一番小さな貝の博物館

貝の図鑑は、
手に取りたくなるようなデザインと見るだけではなく読みたくなるよう
な内容にしました。地域の豊かな自然環境を伝える郷土資料として、自
然科学や生物多様性、ネイチャーポジティブへの理解を深めるための教
育資材としてまとめました。(令和7年度松江市まちづくり活動補助金)





楽習会

- 生物多様性
- 貝の採取
と標本作り





貝の収集





収集した貝の分類



貝の標本作り

戦略(ストラテジー) (5分)

生物多様性を観光資源

- 1 一貝の収集→貝の分析同定→貝の図鑑
- 2 一図鑑英文翻訳 (デジタル図鑑にして世界に発信)
- 3 一日本で一番小さな貝の博物館

戦略(ストラテジー) (5分)

生物多様性を観光資源

- 1 一貝の収集→貝の分析同定→貝の図鑑
- 2 一図鑑英文翻訳 (デジタル図鑑にして世界に発信)
- 3 ー日本で一番小さな貝の博物館

(アンチテーゼ：期間5年/小波浜だけの貝/廃屋改造/1代限り)

持続可能な社会の実現 (100年1000年続く社会)

(地球生態系と共生して、持続的に成長・発展する経済社会の実現)

- 低炭素社会
- 循環型社会
- 自然共生社会 (心豊かな健康社会)

Well beingの世界の世界に向かいながら、
新たな観光資源として
自然共生社会 (生物多様性) を伝えます

FIN

松江市 市民部市民生活相談課の皆さま
ご来場の皆さま ご清聴をありがとうございました